

**次世代有機EL開発拠点  
23日着工 1月稼働**

福岡県は4日、次世代型の有機EL（エレクトロ・ルミネッセンス）製品の開発を目指す「有機光エレクトロニクス実用化開発センター」を23日に着工すると発表した。総事業費は8億9500万円で、来年1月に稼働する予定。同センターは延べ床面積が1800平方㍍で、福岡市西区の九州大学伊都キャンパスの近くに建つ。

九大の安達千波矢教授が高価なアーメタル（希

少金属）の一種であるシリジウムを使わない次世代有機ELの実用化を進めている。九大は世界最高の発光効率を持つ有機EL素材の特許も持つ。同センターは主に安達教授の研究チームが利用するほか、県外郭団体が新規採用する研究機関出身者ら8人の技術者との共同開発も進める。有機ELパネルメーカーの技術者の利用も見込む。県は同センターの開設により、最新の技術開発を支援とともに、関連産業の育成や集積を狙う。